

サポート

No. 180

令和3年11月26日発行
県教育庁特別支援教育課指導班

特別支援学校文化祭

「第19回わくわく美術展」を開催して

11月5日（金）から11月8日（月）までの4日間、秋田市の「にぎわい交流館AU」で「わくわく美術展」を開催しました。今回も自由作品の募集と展示は実施できませんでしたでしたが、全県の特別支援学校と、八峰町立八森小学校・秋田市立雄和中学校の特別支援学級から計1,007点という過去最多の絵画作品の応募がありました。その中から審査によって選ばれた114点の入賞・入選作品は、独自の視点と豊かな表現によって描かれた、どれもすばらしい作品ばかりでした。会場の一角では、各校の美術部等の活動紹介をスライドショーで放映するコーナーを設け、来場者に特別支援学校の文化活動の一端を紹介しました。

美術展の来場者の中には、同時期にアトリオンで開催された「県高等学校総合美術展」を御覧になった一般の方や高校美術部の生徒の姿もあり、昨年より多い670名の皆さんに絵画を鑑賞していただいたことは、成果の一つとなりました。

11月中旬の能代市を皮切りに、12月中旬に大館市、1月中旬に大仙市で入賞作品を中心にした「でまえわくわく美術展」も開催します。ぜひ各地域でも御鑑賞いただければと思います。

（特文連美術部会委員長 ゆり支援学校 教諭 塚田 誠）



一つ一つの作品が輝く美術展

パチリ光る感性～「令和3年度みんなの写真展」



感性あふれる作品が並ぶ写真展

応募415点のうち入選以上の52点を、11月5日（金）から11月8日（月）まで、にぎわい交流館AUアートギャラリーに展示しました。ボールが飛び上がった瞬間、顔をくっつけ合うすがすがしい表情の二人など、若い感性で捉えた数々の作品を御覧いただきました。

12月18日（土）、19日（日）には、初めての会場となる「ALVEきらめき広場」での展示も行います。きらめき広場は、秋田駅の隣で人通りが多いため、より多くの方に見ていただきたいと思います。

（特文連写真部会委員長 聴覚支援学校 教諭 加賀谷 衿子）

特別支援学校職業教育フェア（県南地区）

主管校：大曲支援学校せんぼく校

10月29日（金）、大曲支援学校せんぼく校を会場に、「令和3年度 秋田県特別支援学校職業教育フェア（県南地区）」を開催しました。当日は、第10回秋田県特別支援学校技能競技会「錬成会」の他、一般企業の方々を対象にした就労支援セミナーを実施しました。職業教育フェアの目玉である技能競技会には、県南4校から14名の生徒が参加しました。ビルクリーニング競技では、緊張感漂う中、素早く的確に清掃に取り組む選手たちの姿に、会場中の視線が注がれました。また、喫茶サービス競技では、オーダーを受けてからの作業の手順や接客マナーなどを競い合いました。

お客様役として御協力いただいた企業の方からは、「どの生徒も素晴らしい接客だった」「特別支援学校を知る良い機会になった」などの感想をいただきました。ビルクリーニング競技の審査員「商栄株式会社」の齋藤 実樹 様からは、「選手たち全員のレベルが高く、安定した技能を有していたことや、その中でも入賞した選手はスピードが速く、手順も間違わずにできていた」と講評をいただきました。喫茶サービス競技の審査員「Happiness&Emotion はぴえも」の草薙 幸子 様からは、「カフェは何のためにあるのか、お客様はどんな気持ちでそこを訪れるのか」を考えて仕事をする中で、自然と素敵な笑顔ができるようになるということ講評で教えていただきました。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で規模を縮小しての開催でしたが、選手たちが実力を存分に発揮できた職業教育フェアになりました。



実力が拮抗したビルクリーニング競技



笑顔あふれる喫茶サービス競技

（大曲支援学校せんぼく校 教諭 佐藤 豪）

特別支援学校 特色ある取組の紹介

～ 比内支援学校 達子森のものづくり講座 ～

11月5日（金）、地域住民を対象に生徒が講師となり、学習で取り組んでいる製品づくりを体験してもらう「達子森のものづくり講座」を行いました。新校舎の機能を生かし、製品づくりを通して本校の教育活動への理解推進を図ること、生徒は教える経験を通して日頃の学習の成果を披露し、達成感を感じることを目的として昨年度から開催しています。今年度は8名の方が受講し、比内わっぱコースター、ワンプレート皿、草木染めハンカチの三つの班に分かれて体験してもらいました。講師の生徒たちは、製品の特徴や作り方の説明をしたりお手本を見せたりして、一人一人に丁寧に分かりやすく作り方を教えました。



比内わっぱコースター体験

受講者からは、「丁寧に明るく対応してくれて好感もてた」「説明が分かりやすく親切に指導していただき感動した」「次回も受講したい」等の感想が寄せられました。生徒からは、「緊張して教えるのは難しかったが、分かりやすく説明したりやり方を見せたりすることができた」という振り返りがありました。日頃の学びを生かし、人に教えることで学びを深める貴重な機会となりました。

（比内支援学校 教諭 兎澤 由紀子）

インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介します。

小・中学校における特別支援教育の充実に向けて 特別支援教育セミナー ～ 由利本荘市立大内中学校における実践 ～

由利本荘市立大内中学校自閉症・情緒障害学級（2年生1名、3年生2名）の自立活動の実践を紹介します。

自己肯定感が低く、多くの人の前で積極的に行動したり発言したりすることが苦手な3名が、周囲の人に楽しんでもらう企画を実行することを通して、一人でも多くの友達や先生方と接点を持ち、その後の自分の気持ちや行動を変えていくことをねらいとした指導です。本時は、全校生徒から集めたアンケートを集計する学習でした。

○単元名 「きのこの山・たけのこの里 あなたはどっち派？」

○主な単元構成の工夫

- ・交流学級の生徒が関心をもてるような題材の設定
- ・興味・関心を高められるように、単元の導入で3名の生徒が好きなYouTubeを活用
- ・友達のよさを認められるように、一人一人の得意な分野を互いに尊重できる場面を設定
- ・印刷を依頼する等、たくさんの人と交流する機会を設定



くじを引いている場面

○本時の生徒の様子

- ・昨年度の特別支援教育セミナーでは、参観者が来たことで机に伏せていたAさん。エクセル入力が得意な生徒で、「〇年生はたけのこの里派か」「△%だな」などと、友達と会話をしながらアンケートの集計に意欲的に取り組んでいた。担任から「Aさんは、本当にすごいね、先生は絶対できない」と伝えられ、とても誇らしげな表情をしていた。
- ・アンケートの集計結果に興味をもってもらうために、当選者にプレゼントをすることになり、当選者を決めるくじ引きを3名が交代で行っていました。「〇〇さんは△年生だ」「□□をしている人だ」と相手のことを想像しながら、とても良い表情で取り組んでいた。

本時の授業には、参観者に意見を求める機会を意図的に設定したり、プレゼント企画を通して相手意識を高めたりするなど、人と関わることが苦手な生徒が、困難さを主体的に改善・克服するための「しかけ」が随所に盛り込まれていました。教師が生徒一人一人の特性を的確に把握しており、生徒の発言や様子を見て活動内容を微調整するなど柔軟に対応したことが、3名の意欲的な姿につながったと考えます。本学級担任2年目の教師と生徒3名の間に強固な信頼関係が構築されており、信頼できるキーパーソンの存在や安心できる環境を基盤として、関わりが広がっていくことを改めて感じた実践でした。

○校内支援体制の整備

- ・大内中学校には、由利本荘市の学校間連携コーディネーターが週1回勤務しており、本学級の生徒たちと非常に良好な関係を保つなど、連携を密にしています。本時も参観し、「私の友達を連れてきた」と、私たち参観者と生徒をつないでいただきました。また、特別支援学級の時間割を踏まえて通常の学級の時間割を設定するなど、校内支援体制が整備されており、「学校全体で取り組む特別支援教育」として、参考にしたい実践です。

（中央教育事務所由利出張所 指導主事 高橋 基裕）

